

インターバンクの声（2016年6月24日）

欧州連合 (EU) からの離脱の是非を問う英国の国民投票の結果を待つ中、ロンドン時間の朝方に、複数にわたる最後の事前調査が、いずれも残留優勢と報じたことで、投票途中のロンドン時間の午前中には早くもポンドやユーロが大きく上昇し始めた。当初、離脱と残留の結果が判明し始めるのは、東京時間 (24日) の昼前後になるのではないかと見られていただけにやや拍子抜けしたディーラーも多かったようだ。ニューヨーク市場に入ると、いよいよEU残留支持の結果となる確信が強まっていたが、さすがに東京市場の午後から200ポイント超も上昇していたポンドだけに、一旦1.47ドル台まで反落した。ただ、105円台中盤から106円前後まで円売りが進んでいたドル/円に大きな調整は見られず、投票の最終結果が判ればもう一段の円売りがあ
るのかも知れない。ポンド、ユーロ、円が投票開始前の水準に直ぐに戻ってしまうことはないと思われるが、残留となった場合に対する事前予想には極端な反発がないとする見方も多かっただけに、東京市場でもう一勝負かけてくるような投機家もおり、ビッグ・イベントが終了したからと言って気を抜くのは禁物だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。